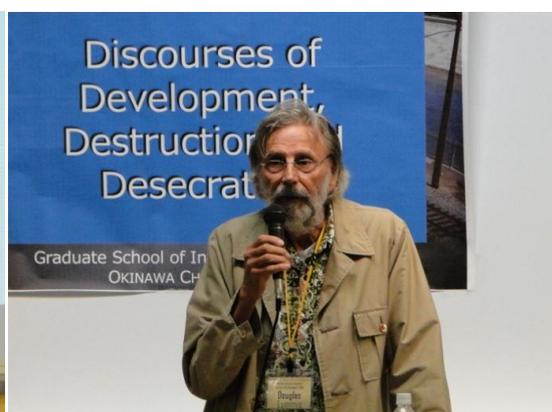


**2015 年度 大学院主催国際学術会議**  
**「開発、破壊、冒涇の言説—自然に対する人的操作の研究—」**  
**を開催しました。**

10月31日から11月1日の2日間にわたり、本学大学院の異文化コミュニケーション学研究科は、国際シンポジウムを開催しました。カナダやシンガポールからも研究者が集いました。シンポジウムのタイトルである「開発、破壊、冒涇の言説～自然に対する人的操作の研究～」は、研究者のみならず教員や活動家、学生など広く政府や企業の「進歩」や「安全保障」、「防衛」といった名の下の開発を研究調査している人々を包括し、学内外から73名の参加者がありました。初日には、シンガポール国立大学で言語と文学を担当するジョン・ウェイレン・ブリッジ博士が、シャローム会館1-1号室で基調講演を行いました。彼の研究分野でもある中国政府がチベット人に対してどのようなレトリック操作を用いて統治しているか、逆にチベット人が不服従を貫いてそのレトリックをかわしているか、また善の象徴であるチベット仏教僧などについて講演がなされました。ケニス・バークのレトリックに関する学説を引いて、弱き者であっても基本的な価値観を共有することができれば、強き者の支配を解くことができると博士は結論づけました。本研究科の客員教授でもあるダグラス・ラミス博士は、近代化イデオロギーの理論と実践の歴史について触れ、近年の人類と環境への影響について述べました。最終のセッションでは、本学英語コミュニケーション学科の学生と沖縄国際大学の学生がパネルに並び、フィリピンにおける開発プロジェクトの住民へもたらす影響について、夏の研修に基づく報告を行いました。そして本研究科の新垣誠教授と沖国大のピーター・シンプソン教授が、パネルをまとめました。他の報告では、軍国主義や国際自由貿易の真相、教育システムや企業のベンチャーなど、自然環境への深刻な影響についてなど、活発な議論が交わされました。また2日目には、バスツアーを実施し、辺野古や嘉数高台を訪れ、開発・破壊の現場を見学しました。



< 基調講演 : Dr. John Whalen-Bridge >



< 特別講演 : Dr. C. Douglas Lummis >



<学部生によるパネルディスカッションの様子>



<集合写真>

ご来場いただきました皆様、ありがとうございました。